

日本「的XX」を超えて

(株) 創研プランニング
鎌田博樹

言いたいこと（とりあえず...）

- ✓ 問題提起
- ✓ なぜドキュメント
- ✓ 標準をめぐって

日本のソフトはなぜダメか

✓ 日本の技術者の 7 大欠陥

- 自立性（自己責任）の欠如
- 言語 = 表現能力の欠陥
- 抽象化能力の欠如
- アーキテクチャ構想力の欠如
- テクノロジーにおける一貫性の欠如
- 標準の利用における積極性の欠如
- 車輪の再発明の愚

✓ 「コミュニケーション」と「国際的標準への関わり」

なぜドキュメントか？

✓ ドキュメントの本質

- 記録性 = 証拠性
- 主体の明確性（発信者、受信者、管理者）
- 論理性 = 構造的性
- 規格性（交換 / 整理 / 管理）

失敗から学ぶためのシステム

✓ 問われているのは「日本というシステム」

- 「日本的」自己正当化を押し通せば破滅
- 透明性以外に信用は成立しない

何が悪いのか

✓ コミュニケーションの前提

- 主体としての個人
- 手段としての言語

✓ マネジメントにおける個人の欠如

- 現場よりもリーダーの問題
- 社会組織における文化革命が必要

✓ 「日本語」の閉鎖性

- 日本語を特殊視
- 日本語の国際化を意識的に阻む

標準に対する姿勢

✓ ポリシー、戦略の不在

- 何が「国益」かを明確にしない
- 長いものにだけ巻かれる
- 発言せず、あとでガタガタいう

✓ 標準は何のためにあるべきなのか

- ユーザーの利益
- 交換性と多様性の両立
- 技術的安定性と拡張性の両立

de jure/de factoを超えて

- ✓ 「決まったもの」と「普及したもの」
 - どちらもそれだけでエラいわけではない
- ✓ 標準が機能するために
 - 決定プロセスのオープン性
 - 仕様のオープン性（改良に道を開く）
 - ライフサイクル性（改訂 - 廃棄プロセスの整備）
- ✓ OMGにおける仕様
 - なぜ成功したか
 - インタフェースに限定、オープンな仕様
 - プロセスのオープン性

ドキュメント管理への意識

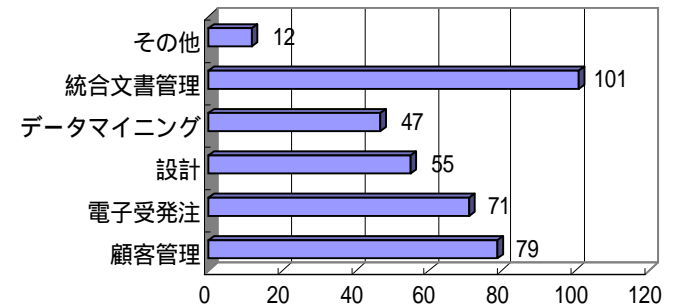
✓ 分散オブジェクト市場調査

- 1998.10(株)創研プランニング実施
- 分散オブジェクト技術を使ったSIの現状を調査
- 従業員500人以上の企業対象

✓ 半数以上が「文書管理」を選択

- システム環境の異質性が文書管理の障害であった
- 文書管理はSIの主要なターゲット
- ビジネスプロセス改善の鍵

インテグレーションによって実現をめざす統合機能



機能	実数	/175
顧客管理	79	45.10%
電子受発注	71	40.60%
設計	55	31.40%
データマイニング	47	26.90%
統合文書管理	101	57.70%
その他	12	6.90%
N=175 (3選 択)		

「文化」は後進性の隠れ蓑ではない

✓ Cultureとcultureのすり替え

- 日本のCultureは国際性を持ち、尊重されている
- 問題は日本の悪しきculture（閉鎖性、無責任...）

✓ 悪いcultureを克服しなければ進歩はない

- 日本語の国際化（ビジネス・ジャパニーズ?）
- ドキュメンテーションの確立
- 日本人が不利益を蒙るようなcultureはいらない

✓ 問題はコミュニケーション